

令和元年度

学校法人

笹田学園

事業報告書

## I. 法人の概要

本学園は昭和3年の浜松（服装）研究所設立より受け継がれてきた「技術の原点は心である」との建学の精神を継承し、「和する心」「敬う心」「質実な心」「美を求める心」の4つの心を校訓に掲げています。

昭和3年4月	創立者 笹田 栄により浜松市菅原町に設立
昭和20年4月	浜松市東伊場に移転する。
昭和22年	浜松で初めてファッションショーを開催
昭和23年4月	静岡県公認校となる。東京文化服装学院連鎖校となる
昭和30年4月	創立者 笹田 栄逝去。笹田陽子学校長就任
昭和41年6月	学校法人化。学校法人笹田学園となる。笹田陽子理事長就任
昭和41年11月	本館（現4号館）校舎完成
昭和47年12月	ろまん館校舎完成
昭和50年7月	創立30周年記念式典挙行
昭和51年3月	専修学校法成立にともない、浜松初の専門学校となる（学校教育法第82条の8）
	校名を「笹田学園ファッション専門学校」に変更する
昭和55年11月	創立35周年記念式典挙行 記念行事として「第一回 笹田グランプリ」開催
昭和56年4月	文部省指定向陽台高等学校技能連携校となる
昭和58年2月	「第二回 笹田グランプリ」(のちのデザインコンペティション)開催
昭和60年10月	文部省より大学入学資格付与校として指定を受ける
昭和60年11月	創立40周年記念式典挙行。記念事業として未来館(現2号館)完成
平成元年4月	連携校向陽台高等学校が単位制高校として認可を受ける
平成2年8月	デザイン館（現1号館）完成
平成5年6月	運動場用地取得
平成6年2月	アート館（現3号館）完成
平成6年4月	男女共学となる。コンピューター分野学科を新設する
平成7年1月	専門誌称号付与校となる
平成7年5月	創立50周年事業として専門課程校舎（現5号館）完成
平成7年11月	創立50周年記念式典挙行
平成9年2月	「第15回 笹田デザインコンペティション」開催
平成10年4月	校名を「デザインテクノロジー専門学校」と変更し、建築分野学科を新設
平成10年9月	建築実習棟（6号館）完成
平成12年4月	笹田栄一学校長就任
平成14年2月	「第20回 笹田デザインコンペティション」開催
平成18年2月	創立60周年記念式典挙行
平成19年2月	「第25回 笹田デザインコンペティション」開催
平成24年1月	「第30回 笹田デザインコンペティション記念行事」開催
令和2年2月	「第38回 笹田デザインコンペティション」開催

学校法人 笹田学園 大臣認可年月日 昭和41年6月21日  
〒432-8036 静岡県浜松市東伊場1丁目1番8号

### 設置する学校・学科等

#### デザインテクノロジー専門学校

専門課程	ファッションビジネス学科	平成10年度開設
	デジタルメディア学科	平成10年度開設
	建築学科	平成10年度開設

高等課程	ファッション科	昭和61年度開設
	生活アート科	平成6年度開設
	建築デザイン科	平成10年度開設

### 設置する学校・学科の入学定員、学生数（令和元年5月1日現在）

設置する課程	設置する学科	入学定員	現員
専門課程	ファッションビジネス学科	10名	6名
	デジタルメディア学科	20名	32名
	建築学科	20名	30名
	プロ専攻科	10名	3名
高等課程	ファッション科	40名	55名
	生活アート科	70名	163名
	建築デザイン科	30名	58名

## 役員概要（令和元年末現在）

理事長	笹田 栄一
理事	笹田 富子
理事	鈴木 祐二
理事	伊藤 勝人
理事	塩谷 泉
理事	瀧口 基雄
理事	内田 光
理事	橋本 光史
理事	高山 直久
監事	板倉 広亨
監事	千葉 信二

評議員	笹田 富子
評議員	山中 久美子
評議員	松本 敏明
評議員	浅井 恒志
評議員	十束 節郎
評議員	笹田 陽二郎
評議員	中本 悦司
評議員	水谷 秀雄
評議員	笹田 恵子
評議員	鈴木 祐二
評議員	村松 正之
評議員	山本 洋子
評議員	橋本 光史
評議員	豊田 茂
評議員	山内 清司
評議員	兼森 淳一
評議員	阪本 一史
評議員	野々山 訓弘
評議員	八代 拓人

## 教職員概要

設置する課程	専任教員	兼務教員
専門課程	2名	12名
高等課程	8名	24名

## Ⅱ. 事業の概要

### 1. 中長期計画

我が国の高等教育機関・後期中等教育機関を取り巻く環境において、18歳人口が120万人前後に減少し、若干の増減はあるが今後しばらくはこの状態が続いていく。これに加え世界規模の金融破綻からの影響が長引くなど、日本の経済基盤や産業構造に大きな影響と変化を与えており、社会的価値観も変わってきている。教育機関においても戦後からの出生数に伴う量的拡大といった教育制度が行き詰まってくるなど、今が教育改革のターニングポイントとなっており、今後の5年間、10年間で学園の教育目的の維持・発展に向けてどのように施策を行っていくかが、重要な課題となる。その展望として中・長期計画を策定しつつ、笹田学園の教育基盤、財政基盤の強化を図る。

本学園は社会に通用する人材を育成することを指針としているが、近年の社会変化に対し、従来の教育内容をどのように見直し、それが新時代を先見すべきカリキュラムの編成として、また産業界との連携強化の中で、変革しつつある人材要求に対応できる教育機関とならなければならない。また、それに応じる事のできる教職員の育成も大きな課題となる。

なお、今年度より職業実践専門課程への推薦を受けるための準備も行っていく。

### 2. 令和元年度の事業報告

#### 1) 学生募集活動

##### ① 当年度の概要

当学校法人を取り巻く環境は、少子化や厳しい経済状況の中にあって、生徒募集活動に大きな影響を受けており、教務・生徒指導・進路の三部門をはじめ学園あげての取り組みに努めた。募集体制の改善が急務である。

##### ② 第9回夢デザインコンテスト

23年度、コンペ30回記念事業として始めた小・中学生を対象としたコンテストを今年度も開催した。自らの好きなデザイン画を製作する事により、小・中学生

の制作意欲の向上目的としている本事業に応募作品は中学生部門 1046 点、小学生部門 1,589 点もの作品が寄せられ、受賞作品は 10 月の鈴蘭祭で表彰をし、新聞掲載もされた。

## 2) 学生の動向

本校の生徒・学生の動向として学力水準が低く、基礎的な学力、特に国語力・数学力に劣るところのある生徒や、日常生活を自立的に統御し、対人関係を律することが不得手な学生などが見られる傾向にある。これらの学生に対しても個別指導や補習教育などの適切な対応策を講じる必要が生じたため、具体的な対策を工夫しつ今日に至っている。本学の入学生の学力や人間的資質は多様で多元的であり、それぞれの学生の傾向や水準に合った教育指導の工夫が求められるところである。

## 3) 学校評価等の公開

学校自己評価や財務状況をホームページなどに公開する事で、より開かれた学校を目指す。今後、学校関係者評価、さらには第三者評価を行えるよう、より充実した学校自己評価の点検項目などを増やしていく。